

# 谷津矢車さんがUターン 青梅市出身の歴史小説家



新刊を手に故郷で創作意欲を高める  
谷津さん(青梅市役所のテラスで)

## 新作は『北斗の邦へ翔べ』

青梅市出身の小説家・谷津矢車さん(35)は昨年10月、生まれ故郷に活動の拠点を移した。ここ5年ほど都内で執筆していたが、家族の死をきっかけにUターン。青梅は子どものころ祖父母と

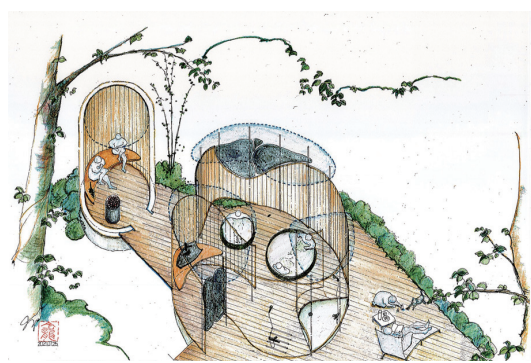
梅を「東京から微妙に遠く、こちらに来たからこそ見えてくるものがあるはず。青梅の魅力はぎゅっと都会が詰まっているが、適度に田舎。史蹟や資料もかなり残っていて、一皮むくと歴史が顔を出す」と評価。帰郷の翌月には最新刊も発売された。箱館戦争を舞台にした松前家中の少年と土方歳三の物語『北斗の邦へ翔べ』(角川春樹事務所)である。「五稜郭で土方を撃ったのは松前藩の少年隊士らしいとの説に着想を得て2人の出会いと交錯する運命を描いた」

青梅市には戦中・戦後に吉川英治氏が疎開していた。小説を書くとき「住んでいる場所

## 一棟貸しの宿泊施設 3月オープン

### 飯能市の温泉旅館 大松閣 遊び心いっぱいサウナ

飯能市下名栗の温泉旅館大松閣(柏木宏泰社長)は、一棟貸しの宿泊施設を3月にオープンする。新しい生活様式のリゾート需要に応える施設を目指す。本館から徒歩5分ほどの名栗川沿いにあるカフェギャラリー「ハミング・HUMMING」を改築し、宿泊施設として再生する。写真。カフェスペースはラグジュアリーな室内空間になり、上質な睡眠が提供できるようこだわりの寝具を導入する。ガーデンスペース



完成をイメージしたイラスト

「人目を気にしない」「人目を気にしない」といったニーズと合致。西多摩周辺では近年、山梨県小菅村に古民家ホテル、あきる野市養沢にある養蚕農家の屋敷を修繕した宿などが開設されている。



## 山を山として守り育てる

かつて多摩川上流の青梅以西は青梅林業地と呼ばれ、江戸に足場丸太を供給していた。そして令和の時代、この木材は「多摩産材」として流通している。東京都森林組合も供給事業者で、山崎靖代さんは副組合長を務める。「その手応えを今年2月、中央大学多摩キャンパスに新棟が竣工したときに感じた。仕上用の素材に私どもの山から直接調達した木

### 林業家 山崎靖代さん



「祖父の文五郎が山にスギだけでなく、市場価値の高いヒノキも植えることで生業を盛り立てたと聞いている。長男の父がその流れをしつかりと守ってきた。一人娘の私

つもの役割を兼ねていたという。「すでに小学生時代から家の仕事をするという決意はしていた。ただ、父のうしろ姿を見つめつつも、引き継ぐまで林業経営については任せきり。育林作業などは先代からうちに仕えてくれた「庄屋」といわれる番頭さんのような立場の人に教えてもらった

には厳しく、跡継ぎとしての行儀作法をしこまれた」それがいかに重要だったかがいまにわかる。山林を手放さず、今日まで続けられたのが何よりの証左だ。だからこそ、山崎さんは、伐って、売って、また植えるという先祖伝来のサイクルを確かなものにして、山を山として守ってきたいと語る。



先代の仕事と教え

「祖父の文五郎が山にスギだけでなく、市場価値の高いヒノキも植えることで生業を盛り立てたと聞いている。長男の父がその流れをしつかりと守ってきた。一人娘の私

【岡村繁雄】

**黒茶屋** 山梨料理  
 新年は2日より営業させていただきます。  
 あきる野市小中野167 ☎042-596-0129  
 令和4年1月の営業  
 平日 11時~15時受付(17時閉店)  
 土日祝日 11時~15時、17時~19時受付(21時閉店)  
 毎週火曜日定休 2月、および年末年始休業あり

**庵**  
 新年は6日より営業させていただきます。  
 あきる野市小川633 ☎042-559-8080  
 令和4年1月の営業  
 日~木曜日 11時~15時受付(17時閉店)  
 金土祝日 11時~15時、17時~19時受付(21時閉店)  
 毎週火曜日定休 年末年始休業あり

**井中居**  
 新年は6日より営業させていただきます。  
 令和4年1月の営業  
 日~木曜日 11時~15時受付(17時閉店)  
 金土祝日 11時~15時、17時~19時受付(21時閉店)  
 毎週火曜日定休 年末年始休業あり  
 青梅市藤橋2-32 ☎0428-30-1661

# 田村酒造場 福生市

## 創業2000年 家訓「丁寧に造って 丁寧売る」を守る 東京の酒として海外見据る

文政5(1822)年から福生市福生で日本酒を造っている田村酒造場(田村半十郎社長)が創業2000年を迎えた。敷地内の井戸に湧く、秩父奥多摩山系の伏流水は中硬水で酒造りに好適。その水がある喜びから「嘉泉」を酒銘にした。伝統を守る傍ら、同社の気風である「進取の精神」の下、品質向上と新しい酒の醸造にも意欲的に取り組んできた。そして近年、16代目当主の田村社長(63)の視線は、地元多摩から東京、そして海外をしっかりと見据えている。2000年の今年に記念酒発売や記念誌発行、11月の蔵開きなどで祝い、創業以来の家訓「丁寧に造って丁寧に売る」を改めて確認する1年になる。

えた。酒造りにおいては家訓「丁寧に造って丁寧売る」を精神とし、しっかりと目が行き届く1500石前後の造り高を守り続けた。経営は堅実を基本にしてきた。

田村家は福生村を切り開いた旧家の1軒で、村の政治一般を司る名主などの村役を勤めた。玉川上水から取水した屋敷内を流れる田村分水は、地域の生活用水や水田、畑を潤す灌漑用水として使われてきた。

酒造場史に輝くのが先代の15代半十郎が産み出した「まぼろしの酒嘉泉」。本来は一級酒となる高精白の本醸造を二級酒として販売することは画期的で、昭和47(1972)年に発売され瞬く間に看板商品となり、現在も販売量の3割を占めて同社の屋台骨を支えている。



床の間に掛かる創業者の勘次郎と酒の神様の絵を前に2000年の節目に気持ちを新たにす田村社長(母屋の奥座敷で)

田村家は福生村を切り開いた旧家の1軒で、村の政治一般を司る名主などの村役を勤めた。玉川上水から取水した屋敷内を流れる田村分水は、地域の生活用水や水田、畑を潤す灌漑用水として使われてきた。



福生市の風景に歴史と文化を添える酒蔵

酒造業は9代目の勘次郎が創業した。当時の江戸は華やかな文化文政期を迎え、急速に発展していた。飲食の需要が拡大し、主流だった上方(関西)で生産する「下り酒」に代わるものとして幕府は「江戸地廻り酒」の生産を奨励した。名主だった田村家にも勧めがあつて当然だった。



松平定信直筆の「対鷗」。大吟醸の酒銘に使われている

「すべて手搾り、手間のかかる瓶燗という火入れ方法を採用した純米吟醸酒です。そこまで気合いを入れたので、名前も蔵の威信

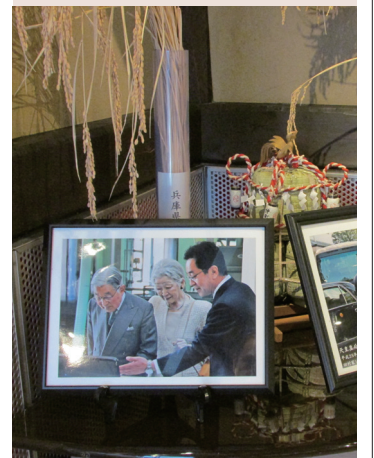
全銘柄の品質向上をめざした蔵づくりと人づくりが一段落したのが平成16(2004)年頃。田村社長は、自前の蔵人になった記念の日本酒の醸造に取りかかる。そうしてできたのが「田むら」だ。

近年、日本酒は海外で人気を高めている。田村酒造場は平成27(2015)年、その名も「東京和醸」という純米酒を発売した。国内はもとより外国へ

「すべて手搾り、手間のかかる瓶燗という火入れ方法を採用した純米吟醸酒です。そこまで気合いを入れたので、名前も蔵の威信

「対鷗」の意は「鷗に對す」。捕えんとすれば逃げる鷗も、あるがままに對すれば自ら寄るといふ。田村社長は「果てなき酒造りの高み。移りゆく時代の潮流。追い求めるものは数あれども、家訓『丁寧に造って、丁寧にする』を守り、酒に向き合う一心を込めて酒銘としました」と話してくれた。

展示コーナーでは天皇、皇后両陛下を酒造場にお迎えした時の様子が分かる



田村酒造場  
〒197-0011 福生市福生 626  
042-551-0003  
FAX: 042-553-6021  
営業時間: 8:30~17:00  
定休日: 日・祝  
(冬季を除き月曜日休業あり)

私は、酒蔵というより田村家に行幸されたと思います。というのも、福生市に来られるのは初めてのこと。おそらく、歴史や産業を知るために当家を会場として選ばれたのだでしょう」

平成2(1990)年から行われた蔵の改築も一大事業だった。先代の父親と、当時は専務だった田村社長は年商の2倍をかけ、建物を整備し、温度管理のできる設備を導入。その背景には、醸造の担い手を高齢化が進む新潟県の越後杜氏や岩手県の南部杜氏から地元西多摩出身の蔵人に切り換えていくという必要性もあつたから

をかけた、社名を冠しました。販売は問屋を通さず小売店に任せています」

東京土産としても通用することを狙った。パッケージには東京の街並みと桜がデザインされ、一見するとワインのようだ。

田村家の歴史は古く、古文書では1600年後半に先祖の名前が確認されるという。明治33(1900)年に建て

「大変光栄なことでした。ただ